

B型肝炎ワクチンについて

世界では多くの国で定期接種として乳児期早期に接種しているワクチンです。日本でも平成28年(2016年)10月1日から定期接種となりました。平成28年(2016年)4月1日以降の生まれで、1才未満の方が対象です。

B型肝炎とは

B型肝炎ウイルスの感染により、肝炎を起こします。急性肝炎で治る人もいますが、劇症肝炎になったり、慢性肝炎、肝硬変、肝がんに進行したりして命を落とす人がいます。

感染経路は体液(主に血液)です。出産、輸血、性行為などで感染が広がります。唾液、涙でも感染することがあります。

低年齢(5才未満)で感染するとB型肝炎ウイルスを長期間持つキャリアという状態になりやすく、将来、肝硬変、肝がんへと進行する可能性が高くなります。傷口にウイルスを含む血液、唾液、涙などが付くなどして保育園等の集団生活で感染した例も時々見受けられます。

また最近、海外で流行している慢性肝炎に移行しやすいタイプが日本でも増えてきており、性行為を通じて若い人たちの間でB型肝炎が問題になってきています。

1才未満の児にワクチン接種をすると抗体の上昇が非常にいいことから、定期接種、助成の対象は1才未満で考えられていますが、国や市の予算からの対象であり、入園前、或いは思春期までに全ての人に受けて欲しいワクチンです。

※一度抗体が陽性になった人は、免疫細胞に記憶が残るため、追加接種は必要ないと言われていません。

10才ぐらいまでの人はほぼ100%抗体が陽性になるため、接種後の抗体検査は必要ありません。身近にB型肝炎ウイルスを持つ方がいる人、10才を超えての接種の人は3回目接種の1~2ヶ月後に抗体検査をして、陽性になったことを確認することをお勧めします。

ワクチンの接種方法

B型肝炎ワクチンは3回接種します。

1回目、2回目(1回目の1ヶ月後)、3回目(1回目の5~6ヶ月後)
1回5,500円+税です。

B型肝炎の定期接種が1才未満の児を対象にH28年(2016年)10月1日から始まりました。

平成28年(2016年)4月1日以降に生まれた方が対象です。

標準的には2ヶ月から開始し、1回目の4週後に2回目、1回目の20~24週後に3回目を接種します。

途中で1才を超えた場合、1才を過ぎてからの分は定期接種の対象にはなりません。

当院ではB型肝炎ワクチンの接種を積極的に勧めています。

乳児早期の接種の場合、他のワクチンスケジュールに組み込んで接種できます。上の兄弟、或いは1才を過ぎてしまった人も入園前、或いは思春期前の接種をお勧めします。

何かご不明な点がありましたら、スタッフにお気軽にご相談ください。

だいどうクリニック 予防接種センター